



Title	京象嵌協会10周年記念展企画展示 ヒューマンボディ デザインの実験 : 第2幕 An EXPERIMENT in HUMAN BODY DESIGN : the second act
Author(s)	滝口, 洋子
Citation	デザイン理論. 2005, 46, p. 188-189
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52976
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

京象嵌協会10周年記念展企画展示 ヒューマンボディデザインの実験 — 第2幕 —
 An EXPERIMENT in HUMANBODY DESIGN — the second act —
 滝口洋子／京都市立芸術大学

象嵌とはある物質の表面に他の物質で模様を象（かたど）り、嵌（は）めこむ技術とその製品をさします。象嵌の歴史は古く紀元前シリアのダマスカスで生まれ、世界各地にひろまりました。有名なものにスペイン象嵌があります。日本にはシルクロードを経て、古墳時代～飛鳥時代に伝わったそうで、刀剣、鎧、兜、鉄砲、根付、印籠等に施されていました。明治の廃刀令以降は家具、装身具を中心に創られています。象嵌の技術は様々な種類がありますが、京都では布目象嵌（生地表面に布目状の細かい溝を刻む技法）が中心です。

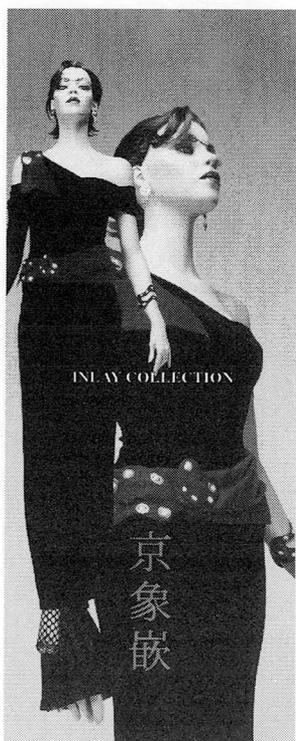
京象嵌協会からの依頼により、10周年記念展のための研修、企画、展示等を行いました。

○京象嵌デザイン研修会 平成15年12月19日
 京都市産業技術研究所工業技術センター
 講義室

テーマ「装身具について — ヒューマンボディデザインからの視点 —」

○京象嵌デザインコンクール

- ・会員の部（1年以内に制作された新商品）
 - ・学生の部（私が身につけてみたい装身具）
- 審査会 平成16年3月18日



展示バナー3点

ビジュアルデザイン専攻の学生有志（3・4回生，院生）たちとは，象嵌の工房，ショールーム見学と関連する美術館や博物館での研修を行いました。冬期休暇を利用し計30数点のデザインを協会に提出，そのうち15点が会員各社によって制作されました。

○会場構成／ディスプレイ

会場：京都クラフトセンター

会期：平成16年3月18日(木)～23日(火)

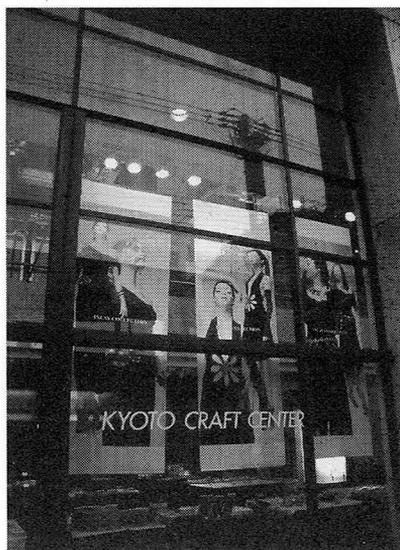
○デザイン及び制作

- ・象嵌デザイン10点（制作は会員各社）
ネックレス，ブレスレット，リング，チェーンベルト，イヤリング，他
- ・マネキン3人 コスチューム制作，ヘア，メイクアップデザイン
- ・展示用バナー制作

ヒューマンボディデザインの実験展（平成15年 神戸，東京，ポーロニャ）では，イメージ都市を西洋としていましたが，今回の制作ではより実感の持てる日本，京都へと変化させています。

（デザイン理論 No. 44 p.166-167参照）

特に，シルクロードを経て大陸から伝わったという点にイメージの原点をおき，マネキン選定，メイクアップ，コスチューム制作，象嵌デザインを行いました。



左：会場外観
中：会場風景
右：会員ブース



学生作品